

第12回うきは市ルネッサンス戦略推進協議会 議事要旨

日時：令和2年11月25日（水）14時～16時

会場：市役所3階 大会議室

出席：（敬称略）

会長 狩野啓子 久留米大学文学部 特任教授
委員 森 禎久 九州経済産業局地域経済部地域経済課 地域創生担当参事官
志野久美子 九州厚生局健康福祉部 医事課長
原口芳樹 九州地方整備局企画部企画課 課長補佐（代理出席）
花田佳菜子 福岡県企画・地域振興部 広域地域振興課 主任主事（代理出席）
後藤 明 日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長
海堀弘子 福岡銀行吉井支店 支店長
水町 明 西日本シティ銀行吉井支店 支店長
渋谷祐一 西日本新聞社 浮羽支局長
田村吉彦 うきは市社会福祉協議会 事務局長兼在宅福祉課長
平位秀敏 うきは市商工会 事務局長
石井信一 にじ農業協同組合 営農経済担当常務
樋口哲也 浮羽森林組合 専務理事長
古賀公彦 うきは観光みらいづくり公社 代表理事
関 健児 うきは市勤労者協議会 会長経験者
杉 俊明 御幸地区自治協議会 事務局長
處 愛美 うきは市教育委員会 委員
菊池美樹 浮羽中学校 PTA 副会長
高木亜希子 九州元気計画経験者
藤川由美 うきは市子ども子育て支援事業計画委員経験者
高橋和子 白壁レディース21 代表
樋口幸代 うきは翼の会 代表
副会長 今村一朗 うきは市 副市長

欠席 足立 整 九州農政局福岡県拠点 地方参事官
平塚敦章 筑邦銀行吉井支店 支店長
大塚貴久子 浮羽青年会議所 監事経験者

1- 開会（事務局）

2- あいさつ（会長）

3- 議事

(1)第1期ルネッサンス戦略の重要業績指標(KPI)
達成状況
（事務局説明後、質疑）

【会長】高校卒業世代の流出が止められなかった要因は何だと考えているか。

【事務局】高校や大学への進学で流出していると、見受けられるが、個人的には進学する選択肢は多い方が良いと思っており、一度は市外へ転出して最終的に戻ってきたいと思えるまちづく

りが重要だと考えている。

(2) 第2期ルネッサンス戦略(案)の承認について
(事務局説明後、質疑)

【委員】合計特殊出生率を見るとうきは市は上がってきているが、実際の出生数は年々減少している。2015年は245人だったが去年は168人しか生まれていない。今年は10月現在で142人。これで率が上がるのは分母が少なくなっているからだと思う。この人口ビジョンの中に率だけではなく出生数も記載してはどうか。

【事務局】ご意見のとおり、一概に出生率だけで比較するのは問題と認識している。今後そういった資料を含めて皆様の意見を伺っていきたい。

【委員】人口減と出生率について、11の自治協があり吉井は90%近く維持して、御幸や大石付近は80%ほど、一方山間部は50%減などになっているので、地域ごとの分析も必要かと思う。

【委員】資料3の4ページ転入数・転出数について、1997年と2017年が転入と転出の差が狭まっているが、要因はあるのか。

【事務局】1997年については、時間が経過しており分析が難しい。2017年については、第1期うきは市ルネッサンス戦略を策定し1年経過した頃で、移住や関係人口などの取組が進み始めたころである。それが要因だとははっきり言えないが、そういった時期であったことも一つの要因ではないかと考えてる。

【会長】第1期から関わっているが、広報によるうきはの魅力発信が盛んになり始めたころだと記憶しており、その辺りからうきは市に移住して店を出すといった人も出てきた印象がある。それが理由か分からないが、広報活動はかなり重要だと感じている。

【委員】印鑑廃止について政府が盛んに呼びかけているが、うきは市として取組を行っているか。

【事務局】福岡市がいち早く見直しを行っており、全国の自治体でも見直す流れになっている。うきは市として今現在廃止したものは把握していないが、来年度、住民票の申請などをタブレット端末を使用して書かない電子申請窓口ができないか検討している。印鑑の廃止も含めて簡潔な手続きの推進にむけて取り組んでいる。

【会長】オンライン申請になったときに、それを使いこなせる人の割合は半数ぐらいだろうか。山間地の高齢者など難しい人もいると思う。印鑑廃止して署名でも良いとなると楽になる。

【委員】12ページ「農林業の担い手の育成、支援」の中で女性の認定農業者の増加を書き加えられないか。また農福連携も併せて目標に含めたらどうか。発達障害を抱えている方の中で、特性にもよるが農業に向いている方もおり果樹農家に就労している方もいる。

13ページ 創業支援の充実で、創業をたくさんしている人がいる。一人がいくつも事業や会社を立ち上げているのが見受けられるが、数年後にちゃんと収益が上がっていくのか、雇用が生まれていくのかバックデータを把握できるのか疑問である。そういったデータがあれば、補助金や助成金が有効に活用できているか分かりやすい。

14ページの空き家の解消について、空き家はこれから供給過多になっていくと思う。10年後20年後に、市の防災力の足かせになっていかないか心配している。

また、防災力について、特に中山間地など脆弱な地域が出てきて実際に災害が起きたときに、行政区として防災力が機能するのか懸念している。他の自治体などは市が積極的に行政区の再編を行っており、行政側がある程度主体的にそういった発信をしても良いと思う。

15ページで「外国人を含む市民が」とあるが、市内にもアジア圏の方が多く住んでおり、

日常的にコミュニケーションがとれるよう、日本語や日本の習慣についてレクチャーする機会や講座があると良い。

【事務局】農林業センサス調査では就農者が減っている現状が見受けられ、担い手の育成は急務である。女性や障がい者に限らず、やる気があればどんな方でも育成し支援することとしているので、ここには女性や障がい者の方も内包していると考えていただきたい。

創業に関するデータで、民間の話は行政としてコメントしにくいところがあるが、いろんな創業をされることは個人的には良いことと考えている。やってみて、結果が分かることもある中で、データをどう取るかは内部で検討しながら、国が示す RESAS や経済センサス調査などのデータを活用していきたい。

古民家の流通促進について、供給過多になっていくというのは仰る通りで、なんらかの対策ができないか担当課に伝えたい。ただ、個人の所有物件であり行政代執行は難しい面もある。空き家に限らず、外国人への対応についても行政だけでは解決できない問題が多いため、いろんな関係者の方々と連携をし取り組んでいけたらと考えている。来年度、市民が自主的に外国人へ講座等を開催した場合に支援ができないか検討している。

【会長】農業と女性については昔から関心があり、どんな人でも就農者を増やすというならば、携わる以上権利を認めてあげないといけないと思っている。実際は就農しているのに、認定農業者は何もしていないというケースも聞く。女性も認定農業者になる方向を探ったり、家族経営など熱心に取り組んでいる地域もある。そういったところを一つ一つクリアしていき、女性が働きやすい農業を発展させていけると良い。この問題は SDGs にも直結するため、そこにも関連付けながら進めていくと良いと考える。

【委員】14 ページの空き家対策について、KPI は空き家を撤去することだが、書いている中身

は空き家の活用についてである。KPI と実際にやろうとしている中身が合っているか。

【事務局】ルネッサンス戦略は総合計画と一体となって作成しており、総合計画の中からこの KPI を採用した。ずれが生じている箇所もあるが方向性としては同じであり、ご理解頂きたい。

【委員】今日は駅から歩いて市役所まで来たが、昔ながらの綺麗な町並みがあって、これは資源として上手く活用すれば必ず人が集まると感じた。防災上の観点もあるが、活用する方向で進んでいければ良いと思う。

【委員】12 ページの概要で、「起業・創業者の積極的な呼び込みを図ります」とあるが、現在いろんな人を募集しているが、集まるのはほとんどが市外の人である。提案として、うきは市の職場紹介や説明会を市をあげて年に数回実施するなどすれば、地元で働きたいという方も増えてくると思う。広報誌や SNS での情報発信も有効であると考えている。

【事務局】数年前から、そういった視点の意見が出てきており、実際に実施している。13 ページの中で高校生以下の就職希望者と事業者とのマッチングは必要だと考えているので、引き続きその視点を踏まえながら進めていきたい。また、ようやく今年度からうきは市にも公式の LINE アカウントができたが、ターゲット層に合わせて広報誌や SNS を活用している。そういったツールを活用しながら支援を進めていきたいと考えている。

【副会長】創業や就労の課題については、U-BIC の活用や商工会と今後も連携しながら取り組んでいきたい。

【委員】14 ページの空き家解消に向けての取組で、うきは駅周辺だけの問題ではないと思う。

16 ページの結婚から子育てに関する問題について、理想的なことが多く書かれている。実際

に結婚しないと子どもができないと思うが、自分はシングルマザーでも良いから子どもを産んでおきなさいと人に言っている。最近孤独死にも遭遇し、現実こういった問題が起きているため、結婚して子どもを産むという環境づくりを私たちが取り組んで行かなければならないと感じている。また不妊にかかる問題について、若い癌患者の方には治療に入る前に精子と卵子の温存を勧めている。ただ、治療が終わって、子どもがほしいとなった時に、温存した精子と卵子を使った不妊治療はかなりのお金がかかる。このような細かい支援は国をあげて取り組まなければならないし、国を大きくするためにはまず子どもを産んでもらわなければいけないので、そういったバックアップは重要であると考え。

【会長】不妊治療に関しては保険適用とする案がいま検討させてるのか。市が不妊治療に対して補助をするとすれば人が集まりそうだが。

【委員】話が出ている段階で検討中と聞いている。

【委員】14 ページ 2 の「公園の再編」の中で、「点在する公園の適正な管理」とあるが、どういった意味か。「子育て世代に魅力ある公園」とはどういった公園を考えているのか教えてほしい。

【事務局】適正な管理とは、うきは市には条例で公園と認められたものがいくつがあるが、郊外にあったり、年数が経って子育て向けの公園とは言えない状態の公園もある。新しい公園の整備もしたいが、古くなった遊具の取替など今ある公園の修繕、営繕も必要であり、そういった意味で適正な管理と書かせて頂いている。

また、アンケート等で子育て世帯から公園のニーズがあることは十分把握している。財源的な問題等ではっきり名言できないが前向きに検討している状態である。充実した遊具や家の近くにある都市型の公園などが求められているのであれば、そういった声も反映しながら検討を進めていきたい。

【委員】うきは市に引っ越して3カ月あまりだが、まちを見ていると遊具がある公園が少ないという印象である。充実した遊具があれば近隣から親子で遊びにきて、市内で食事をしてといった消費が促されたり人を呼び込めるのではないかな。

【副会長】公園については議会の中でも議論になっており、特に移住者からは公園が無いというイメージが強くあるようだ。また、子どもたちが自由に走り回れる場所が市の中心部にないないという話も良く聞いている。りり色ふるさと館と庁舎の間にあるグラウンドを活用できないかという話もあるが、土地が低く雨が降ると水が溜まるため嵩上げをしなければならないなど課題もあり検討しているところである。藤波ダム公園にも綺麗に整備した平地があるので、そういった場所も含め検討を進めていきたい。

【会長】15 ページの文化事業で、うきは市の河北家住宅について、九州国立博物館の文化財保存の専門家が「みんなで守るミュージアム」というテーマ設定で数年前に河北家住宅に入ることがある。そのプロジェクトの目指すところは、各地域にある貴重な文化財はその地域の人が意識して守っていこうという機運を醸成していくことであった。そこで河北家住宅が選ばれ、継続して文化財を守る市民を育てることを目標に、研修会や育成事業が実施された。文化財を守ることで防災意識にも繋がるという話であった。うきは市にはすばらしい遺跡もあるため、そういった文化財に意識を向けることで、それが地域の誇りになったり、教育にも繋がっていくと思う。

4- その他（次回開催日程について） 閉会（事務局）